

博士論文要旨

論文題名：拡大生産者責任に関する比較法的検討

— 日中米における比較考察 —

立命館大学大学院法学研究科

法学専攻博士課程後期課程

ワン イチェン

王 一晨

近年、世界各国における社会経済が発展し、資源の過度消費、廃棄物の排出量の増加、最終処分場の枯渇及び環境汚染の発生等の深刻な社会問題が生じている。中国は、近年の急速な経済発展に伴い、自然資源の消費量と都市に発生する廃棄物の量が急増している。廃棄物問題の発生は、中国の経済成長に伴う負の側面であり、深刻化している重大な環境問題の一つであると思われる。

OECD が提唱した拡大生産者責任は、先進的な環境政策手法であり、廃棄物・リサイクル分野において、環境負荷を低減し、循環型社会を創るための潮流になっている。その重要性や必要性は、先進諸国だけではなく、廃棄物大国である中国でも認識されている。しかし、各国は、それぞれの社会状況に応じて、自国に拡大生産者責任を採用させるために、当初の OECD の概念にこだわることなく、独自の理解を展開し、その制度設計についてもそれぞれに異なっている。したがって、まだ拡大生産者責任理念を十分に理解していない、発展途上国である中国にとって、同理念を導入するためには、他の先進国の捉え方と採用方法を理解し、検討することが非常に参考になると考えられる。本論文は、日本、中国及びアメリカにおける拡大生産者責任のあり方を整理するうえで、また理論面と法制面という二つの方面から、三か国に対する比較法考察を行うものである。

本論文の構成は五つの章から成り立っている。第一章は、後の比較法対象の前提としての OECD における拡大生産者責任の理念、内容及び実施手法を整理したものである。第二章は、日本における拡大生産者責任の導入、理論上の捉え方及び具体的な法制度を中心として考察を行うものである。特に、日本における具体的な法制度のあり方を整理することにより、日本における拡大生産者責任における共有責任の捉え方を検討している。第三章は、拡大生産者責任を導入せず、新しい概念の製品管理責任を提唱したアメリカを比較法対象として、製品管理責任の概念、内容、特徴、拡大生産者責任との異同及び実例たるメイン州の法制度を紹介し分析したものである。第四章は、中国における拡大生産者責任に関する理念の捉え方と法制度のあり方を整理し検討している。以上三か国の検討を踏まえて、第五章は、拡大生産者責任の理論面と法制面において関して、三か国の比較法考察を行ったものである。

最後に、本論文の結論として、第一章から第五章において行った論述及び比較法考察を踏まえ、拡大生産者責任の理念に対する理解のあり方と法制度に採用された共有責任の捉え方の該当性と優位性を検証し、また中国における拡大生産者責任の導入に対する「二つの段階」という進むべき道を論じて、本論文の記述を終えるものとする。

Abstract of Doctoral Thesis

Title : A Study on the Extended Producer Responsibility in Comparative Law

—A Comparison between Japan, the U.S. and China—

Doctoral Program in Law
Graduate School of Law
Ritsumeikan University
ワン イチエン
WANG Yichen

Along with the rapid economic development, most countries are suffering from severe problems like a squander of resources and waste discharges. China, along with its extremely economic development, is also facing critical waste problems.

OECD advanced a theory called The Extended Producer Responsibility (EPR), which is large promotion in dealing with waste problems. However, the countries which accepted this theory did not all follow the theory as it were, but made their own development according to various circumstances. As to the countries which do not totally understand this theory like China, it is extremely vital to have a good understanding of the concepts and practice from the developed countries. Therefore, this thesis will be based on a study between Japan, the U.S. and China from the angle of comparative law.

This thesis consists of five chapters. Chapter 1 is an introduction on the concept, content and practicing methods of the EPR in OECD. Chapter 2 is a research of the EPR's shared responsibility system from the view of both theory and legal systems. Chapter 3 focuses on the study of Product Stewardship (PS) from the U.S. and takes Maine as an example of PS research. Chapter 4 is an analysis on EPR's concepts and legal system of China. Chapter 5 is a research from the angle of comparative law based on the prior chapters.

Finally, based on the comparative researches of EPR's circumstances in OECD, Japan, the U.S. and China from Chapter 1 to Chapter 5, this thesis comes into a conclusion of how to properly understand the concept of EPR and the discussion on the value of shared responsibility in EPR. Moreover, the direction on developing EPR legal system in China through Two Phases should be discussed as the further subjects in future study.